

# 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所名	ひらお・みんなの家		
所在地	熊毛郡平生町豎ヶ浜414		
電話番号	0820-56-0408	事業所番号	3577300308
法人名	社会福祉法人 平生町社会福祉協議会		

訪問調査日	平成 21 年 10 月 28 日	評価確定日	平成 22 年 4 月 26 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	7 人
職員数	10 人	常勤 8 人 非常勤 2 人 (常勤換算 8.6 人)	

### (2) 建物概要

建物構造	木造		造り	
	1 階建ての	~	1 階部分	

### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額	4,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無	
食費	朝食	300 円	昼食	500 円	
	夕食	400 円	おやつ	円	
その他の費用	月額	20,000 円			
	内訳	光熱水費 12,000円 その他の日常生活費 8,000円			

### (4) 利用者の概要 (10月28日現在)

利用者数	6 名	男性	1 名	女性	5 名	
	要介護 1		要介護 4	2		
	要介護 2	1	要介護 5			
	要介護 3	3	要支援 2			
年齢	平均	88.3 歳	最低	84 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 向井医院 増本クリニック 歯科
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

### (優れている点)

入居前に事業所が行なっているショートステイや併設のデイサービスを利用しながら徐々にホームの生活をわかっていただき、サービスの開始に繋げておられます。また、入居前は自宅にも訪問し、家族や本人の希望や気持ちを聞きながら馴染みの関係を作り、安心してサービスが開始できるよう配慮しておられます。古民家を利用したごく普通の家のような馴染みの生活環境の中での、一人ひとりに寄り添った穏やかなケアを提供されています。

### (特徴的な取組等)

法人が経営する事業所間の支援体制が確立されています。当直、夜勤、緊急時の対応、災害時の応援体制が整備され、職員の安心感に繋がると共に、利用者にとっても、法人内の他事業所の職員ともなじみの関係を作られています。地域の在宅介護を行なっている人や利用者家族を対象に介護教室を年4~5回開催しており、介護教室のあとの茶話会で介護についての悩みを話し合い、地域の相談窓口として介護者の支援にも当たっておられます。

## 【重点項目への取組状況】

### (前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回の評価結果を参考に、毎月1回、利用者家族へ手書きでホームでの暮らしぶりや健康状態などの近況報告をされています。ホーム便りも3ヶ月に1回発行し、ホームの様子をお知らせしておられます。

### (今回の自己評価の取組状況)

管理者及び計画作成担当者が中心となって自己評価を行い、各職員にも相談しながら項目を共通理解し作成されています。提供しているケアを振り返る良い機会とされています。

### (運営推進会議の取組状況)

自治会長、民生委員、利用者家族、町担当職員、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会事務局長、職員で定期的に開催されています。事業所から事業や行事の報告を行ない、事業所周辺の懸案事項を話し合ったり、周辺環境の安全の保持やサービスの向上に向けた提言や話し合いを行なっておられます。

### (家族との連携状況)

毎月1回、手書きのお便りを送付し、ホームでの暮らしぶりや健康状態をお知らせし、3ヶ月に1回はホーム便りを発行してホームの様子を知らせておられます。状況に変化があった時や相談がある時は電話連絡をし、面会時にも介護計画へ対する意見や希望を聞いたり、家族との連携を深めておられます。

### (地域との連携状況)

地域の古民家を活用したホームは地域からも温かく見守られており、健康診断や花火大会などの町の行事に参加したり、職員は地域の清掃活動にも参加しておられます。ホーム周辺の散歩時には菜園の手入れをしている人との交流や団欒も行なわれます。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	<b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	法人の理念を基本に、事業所独自の理念を全職員で話し合い、介護理念として作っている。	
2 (2)	<b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念は職員室や共用空間に掲示し、理念を確認しあいながら実践に向けて日々取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内の花火大会や秋祭り、町が実施する胸部X線検査に地域の人々と共に参加し、触れ合いや声かけを行なっている。ホーム周辺の野菜作りをする人々との交流もあり、自治会の清掃活動には職員が参加し地域との関係づくりを行なっている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価は自分達が行なっているサービスを振り返り、課題を確認する機会と位置づけ、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5 (10)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	定期的開催し、事業所の報告や行事等の話し合いが行われている。地域からの提案で、事業所近くに街灯やカーブミラーが設置される等、周辺の環境整備にも配慮していただいている。	
6 (11)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	日頃からサービスや制度について相談しやすい連携体制が構築されており、サービスの質の向上に向けて共に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、請求書と一緒に一人ひとりの状態や暮らしぶりを手書きで報告し、ホーム便りも3ヶ月に1回送付している。個々の状態に応じ、変化があった時はその都度電話で連絡しており、面会時には直接声かけし報告している。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	苦情相談窓口、担当者、外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。法人本部のサービスモニター3名が、第三者委員の役割をすると共に、事業所を訪問して介護相談員の役割をしている。	
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	日中は3名の職員を配置し、夜間は夜勤者と宿直者の2名体制で対応している。事業所の行事や職員の急な休みの場合は、法人の他事業所からの応援も含め、必要な職員を確保する体制となっている。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	原則的に不要な異動は行っていない。日頃から職員、利用者共に事業所間交流があり、事業所を超えて馴染みの関係が構築されており、離職があった場合は事業所のことが良くわかった職員を配置するなどの配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修計画を作成し、研修委員が中心となって推進している。法人が行う新入職員研修や事業部内研修、事業所が実施する課内研修や外部研修にも参加し、働きながらトレーニングしていけるよう配慮している。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、研修会に参加したり他のグループホームと相互訪問を行ない情報交換に努め、サービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期 待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>利用開始前に家庭訪問し、本人や家族の気持ちを聞き安心して利用できるよう配慮している。事業所の見学や、併設のデイサービスや事業所のショートステイも利用してもらいながら、徐々に馴染んでもらうようにしている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>食事作りや片付け、洗濯物たたみ、掃除、散歩、団欒など、日々を共に暮らしながら体験や喜怒哀楽を共有し、本人から学んだり支えあう関係を築いている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>普段のなにげない会話や様子からも思いや意向を把握し、朝礼やミーティングで職員間で共有しながら、本人本位に検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアカンファレンスは毎月実施しており、3ヶ月に1回はモニタリングを行なっている。事前に本人や家族の要望を聞き、職員で十分に話し合いながら介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>介護計画は介護認定期間に合わせ一年間が多いが、状況に変化があった時や、計画に対応できない変化が生じた時は、家族や主治医、職員など関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>気分転換の為、併設サービスの送迎車に乗りドライブをしたり、病院受診が必要な人の送迎、普通入浴が難しく併設サービスの座浴を利用している人の送迎、紅葉狩りや花見などの外出支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者は夫々にかかりつけ医を持っており、事業所の協力医である内科医師は週に1回、精神科医師は2週間に1回、訪問診療を行い、健康観察や健康管理に当たっている。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	医療連携体制をしいており、利用開始時に方針を説明している。かかりつけ医の意見や本人・家族の意向を尊重し、その都度、話し合いを行い対処している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	一人ひとりを尊重したサービスが提供されており、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はしていない。個人記録の保管も適切である。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切に希望を聞きながら、無理なく楽しい一日が過ごせるよう支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	朝食は一人ひとりの起床時間に合わせ個別に対応している。昼食は配食であるが食事風景は和やかで食事を楽しんでいる様子がかがえる。夕食は畑で採れた野菜を使い調理をし、職員も同じものを一緒に食べ、調理や片付けなど出来ることは職員と一緒にしている。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	午前中が入浴時間になっているが、希望に応じその他の時間帯でも入浴する事が出来る。入浴は毎日可能で、入浴を嫌がる場合はタイミングをみて再度声かけし、入浴を楽しめるように支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	洗濯物を干したりたたんだり、部屋の掃除を職員と一緒にしたり、天気の良い日には散歩に出かけ、近所の菜園を眺めたり、話したり、ドライブ等も行い、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	近所への散歩やデイサービスの送迎車を利用したドライブ、紅葉狩りや花見など、日々戸外に出かけられるよう支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	事業部内研修で身体拘束についての知識を学び、職員一丸となって抑制や拘束の無いケアに取り組んでいる。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は、玄関、居室ともに鍵はかけていない。出入り自由となっている。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	各マニュアルが整備され、マニュアルに添って勉強会を行い、職員全員で共有している。ヒアリはっと事例や事故事例はミーティングで話し合い、一人ひとりの状況に合わせた事故防止策を検討し、介護計画に反映させている。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の対応マニュアルや緊急連絡網を整備し、緊急時のAEDを設置している。取り扱いやマニュアルに添った研修を行い、法人の他事業所間の応援体制も出来ている。	
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回避難訓練を実施している。法人内の協力体制は出来ているが、地域への働きかけはまだ行なわれておらず、検討中である。	・地域への働きかけ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	処方箋をファイルし、薬の目的や副作用について把握し、一人ひとりに合わせて服薬支援をしている。必要な情報は主治医にフィードバックしている。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、一人ひとりに応じた口腔ケアの支援をしている。義歯の洗浄保管についても支援している。必要に応じ、歯科医師の訪問診療を利用する事も出来る。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分摂取量を記録し、健康管理に役立てている。利用者の嚥下咀嚼能力に応じ、形態をミキサー食や刻み食などに換え、食事が取れるよう支援をしている。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを整備し、マニュアルに添った研修を職員全員に実施しており、手洗いやうがいの励行、インフルエンザの予防接種も利用者、職員共に全員で受けている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	古民家を利用したホームで、利用者にとっては住み慣れた自分の家のような感覚があり、なじみやすい生活空間となっている。こじんまりした居間にはソファが置かれ、利用者同士の団欒が行なわれている。食堂からウッドデッキへの移動も可能で、窓の外には木々や季節の花が咲き、気分転換に役立っている。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	写真やぬいぐるみが飾られ、使い慣れた家具やソファセットが配置され、居心地良く過ごせるよう工夫している。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	ひらお・みんなの家
所在地	熊毛郡平生町大字堅が浜西414
電話番号	0820-56-0408
開設年月日	平成 12 年 3 月 1 日

## 【サービスの特徴】

お客様お一人おひとりの思いを汲み取り、穏やかで安心して暮らせる環境づくりに努めています。お客様が幸せと感じられる「一瞬、一瞬」を大切に、その機会を積み重ねて行きたいと思っています。また「自己決定の質と量」を増やすサービスを心がけています。

## 【実施ユニットの概要】 (9月20日現在)

ユニットの名称			
ユニットの定員	6 名		
ユニットの 利用者数	6 名	男性 1 名	女性 5 名
	要介護 1		要介護 4 2
	要介護 2	1	要介護 5
	要介護 3	3	要支援 2
年齢構成	平均 88.3 歳	最低 84 歳	最高 93 歳

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	管理者、計画作成担当者を中心に、職員と振り返りを行う。
評価確定日	平成 21 年 10 月 28 日

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念の共有</b>			
1	○ <b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	○ <b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	○ <b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
4	○ <b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		
5	○ <b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>			
6	○ <b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。		
7	○ <b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		
8	○ <b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
9	<p><b>○評価の意義の理解と活用</b>            運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
10	<p><b>○運営推進会議を活かした取り組み</b>            運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>		
11	<p><b>○市町との連携</b>            事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
12	<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>            管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。</p>	○	部内研修にて、今年度中に権利擁護の研修を行う予定。
13	<p><b>○虐待の防止の徹底</b>            管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
14	<p><b>○契約に関する説明と納得</b>            契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		
15	<p><b>○運営に関する利用者意見の反映</b>            利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	○	ご自分の意志を伝えられない方のご意見をどう受け止めるかが課題である。
16	<p><b>○家族等への報告</b>            事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	<p>○情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。</p>	○	開示情報の確認を定期的に行う。
18	<p>○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。</p>		
19	<p>○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>		
20	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>		
21	<p>○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	○	一定の職員だけで閉塞的にならないようにしなければならないと思っている。
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
22	<p>○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
23	<p>○職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。</p>		
24	<p>○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	面談の機会を設けている。勤務への配慮を怠らない。		
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	人事考課制度を導入している。		
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	人事考課で評価している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	ケアマネジャーとの連携に努め、状況の把握をする。その上で同行訪問をしご本人から話を聴く機会を作っている。	○	ご本人の思いを受け止めることが難しい場合もある。傾聴にこころがけたい。
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	同上。	○	ご本人とご家族の思いの違い等状況の判断に努めたい。
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容を整理し、見極めに努めている。		
31	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	まず、デイサービスやショートステイを利用いただき馴染みのスタッフを作り、馴染みの場所となるよう努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
32	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご本人のご意見は必ず伺う。役割を作っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
33	○ <b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族のご意見は必ず聞き、ご要望に答えるよう努めている。		
34	○ <b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	ご家族と連携をとり、出来るだけ関わっていただくような環境づくりに努める。		
35	○ <b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	傾聴の姿勢を大切にし、思い出の場所、懐かしい場所へのドライブなどに努めている。		
36	○ <b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個性を尊重している。ぶつかり合うこともあるが、職員が間に入りよい状態になるようにしている。		
37	○ <b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	受け入れをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
38	○ <b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その方の思いやご要望の把握に努めている。朝礼やミーティングなどで、職員個々が感じたこと気づいたことを報告し、共有するようにしている。	○	職員の把握する力にばらつきがある。聴くこと、見るのが大切さを伝えたい。
39	○ <b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族からの情報の収集に努めている。会話中の気づきを収集するよう努めている。		
40	○ <b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	アセスメントに努めている。また、アセスメントについて職員の学ぶ機会を設け、意識統一をした。	○	学んだことを、これから実践にいかしていけるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
41	<b>〇チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画を作成するにあたり、まずご本人やご家族の方のご要望をお聞きし、職員一人ひとりがご本人に関わる問題を共有し、介護計画を作成している。	
42	<b>〇現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ご家族にも、その都度ご本人の状態を報告している。見直しもするように努めている。	
43	<b>〇個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日頃の個別記録を詳しく記述することにより、介護計画へ反映するよう努めている。	
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
44	<b>〇事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	出来ることは応じている。	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
45	<b>〇地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議を通じて、ご近所の皆様、自治会長、民生委員と協力得ている。また、避難訓練時にも、消防署の方と相談しながら行っている。	
46	<b>〇事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	相談対応、研修の受け入れは行っている。	
47	<b>〇他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	事業所連絡会への参加。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p><b>○地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		
49	<p><b>○かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
50	<p><b>○認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
51	<p><b>○看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
52	<p><b>○早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53	<p><b>○重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
54	<p><b>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	○	無理をしないよう「出来ること、出来ないこと」を見極めたい。
55	<p><b>○住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
56	○ <b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	自尊心を大切にした声かけ等は職員同士でも気を付け合っている。	
57	○ <b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	自己決定を促す声かけ等に努めている。	
58	○ <b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b> 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	出来ることを見極め、失敗されないように配慮している。	
59	○ <b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。	お一人お一人のペース最優先ではあるが、時には共同生活のため、妥協していただくこともある。	
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
60	○ <b>身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ご家族と協力し、行きつけの理・美容院を利用している。	
61	○ <b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	朝食は、お一人おひとりの起床の時間帯が様々なため、一定していない。昼食は職員は休憩をかねて別室へ、夕食は一緒に食事をしている。	
62	○ <b>本人の嗜好の支援</b> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	お一人お一人の嗜好を把握、支援している。	
63	○ <b>気持ちのよい排泄の支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンの把握、ご本人の様子をよく見る。濡れない排泄介助を目指している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
64	<p><b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>職員のすすめる時間をご希望されないときは、タイミングを見計って声かけをする。</p>	○	<p>デイサービスの時間に合わせて午前中に入浴していただいている。今はそれが生活リズムとして受け入れていただいているが不満とならないよう状況の確認はしてい</p>
65	<p><b>○安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>	<p>あまり時間にこだわらずお一人お一人の思いを汲み取りながら支援している。</p>		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
66	<p><b>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	<p>好きなこと、したいことを把握する。声かけにより生活場面に参加していただく。失敗体験をされることの内容に配慮している。</p>		
67	<p><b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>職員と一緒にお金を使う機会は今のところないがご家族と出かけられた時は、その機会をつくるよう話している。</p>		
68	<p><b>○日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<p>ご希望に添って散歩にお連れしている。デイサービスの送迎を利用してドライブを実施している。</p>		
69	<p><b>○普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<p>お花見や、花火大会、紅葉狩りなどの外出の機会を設けている。</p>		
70	<p><b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご希望のあるときは、子機を渡しお手伝いした後プライバシーを配慮し、居室等でお話をいただいている。</p>		
71	<p><b>○家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>面会は何時でも受け付けている。</p>		
72	<p><b>○家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p>	<p>対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<p><b>○家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。</p>	○	お花見等への声かけを考えているが、こられない家族の方もおられ、お一人お一人が寂しい思いをされないように配慮する。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>			
74	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。</p>		拘束についてのマニュアルを元に、共通理解をもち取り組んでいる。また、昨年8月に、部内研修で学ぶ機会を設けた。
75	<p><b>○鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>		鍵は掛けない。ご自分が室外におられる時、鍵を掛けることで安心しておられるため、ご本人の希望により、鍵をつけている居室もある。
76	<p><b>○利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>		様子確認のための見守りを室外から行っている。
77	<p><b>○注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>		ご本人の状況把握に努め取り組んでいる。
78	<p><b>○事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>		ご本人の状況把握に努め取り組んでいる。
79	<p><b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>		緊急連絡簿の整備。緊急時対応マニュアルの作成し、共通理解に努めている。また、課内研修として「救護法」を行った。
80	<p><b>○再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>		各報告書の提出。それによるミーティングを行う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	<p><b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>		
82	<p><b>○リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
83	<p><b>○体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
84	<p><b>○服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。</p>		
85	<p><b>○便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>		
86	<p><b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。</p>		
87	<p><b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
88	<p><b>○感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。</p>		
89	<p><b>○食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> <b>(1)居心地のよい環境づくり</b>			
90	<b>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	古い民家であり、普通の家として親しみやすい。	
91	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	花や季節のものを取り入れている。	
92	<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	お一人おひとりの思いを大切に配置している。	
93	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の馴染みのものを持参していただいている。	
94	<b>○換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	こまめな換気に配慮している。	
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>			
95	<b>○身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	古い建物であり、バリアフリーではないため、見守りは徹底している。	
96	<b>○わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	ご本人が自信を持てるような声かけ、失敗体験をしないように配慮している。	
97	<b>○建物の外周りや空間の活用</b> 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	テラスを設置し、気候の良い時はテラスで過ごすなどしている。庭に花や野菜を植え、皆さんで育てるなどしている。	○ 外に出られる方が決まってしまうのが課題。思いを大切にしながら出来るだけ全員参加になるよう声かけに工夫したい。

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	
98 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
99 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
100 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
101 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
102 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
103 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
104 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
105 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
106 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
107 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
108 職員は、生き活きと働いている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
109 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
110 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない